第3学年○組 音楽科学習指導案

授業者 納 見 梢

- **1 題材名** せんりつのとくちょうをかんじとろう
- 2 題材について
- (1) 学習指導要領との関連

本題材は、主に、小学校学習指導要領解説音楽編(平成29年7月)A表現 (1)歌唱 ウ「思いや意図に合った表現をするために必要な、(4)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けること。」、(2)器楽 イ「(7)曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。」、ウ「思いや意図に合った表現をするために必要な、(4)音色や響きに気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付けること。」、(3)音楽づくり ア「音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、(4)音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことをできるようにすること。」に関連している。本題材は、様々な旋律の音の動き方を見付けることや、曲想と旋律の特徴(音の動き方や連なり方、リズム等)との関わりを知ることを通して、楽曲全体の旋律の特徴を感じ取ることをねらいとしている。

(2) 題材に関わる児童の実態

本学級の児童は、主に、4月に歌唱、5・6月にリコーダー、7月に打楽器の学習をしてきており、演奏の仕方を工夫することで、自分が表したい音楽表現ができる楽しさに気付き始めている。歌唱及び器楽の技能には個人差が見られるが、常時活動や音楽づくりを通して、基本的な技能を継続して習得してきた。旋律の特徴については、最高音を見付けたりフレーズの終わり方に着目したりする活動を通して、少しずつ理解してきている状況である。

一方で、音楽から新しい気付きを得たり、思いを表すための意図をもったりすることについては、教師や一部の児童の意見に頼っている児童が多い。その原因として、①音楽の特徴を捉える際に注目すべき音楽を形づくっている要素を自ら見付け出せないこと、②思いと意図をつなげて思考したり活動したりする経験が少ないことが考えられる。そのため、①音楽を形づくっている要素の表れ方を知識として定着させるべく、複数の楽曲を同じ視点(本題材では、主に、旋律とリズム)で捉えるようにすること、②一人一人が意図を明確にして思考する学習場面を題材の中で意図的に設けることが必要である。

(3) 本題材における指導

本題材では、主に、旋律の特徴に焦点を当て、曲想の変化と関連付けて学習していく。児童の気付きを大切にしながら、旋律が生み出す曲想の違いを感じ取り、思いや意図をもって演奏したり音楽をつくったりする楽しさを味わえるようにする。

第1次では、旋律の音の動き方に着目して、歌ったり演奏したりする活動を展開していく。まず、「ふじ山」では、歌詞の内容への理解を深めながら、拡大楽譜に旋律線をかいて、楽曲全体のおおまかな音の動きを可視化することで、曲の山を中心に強弱を工夫して歌唱するようにする。次に、「あの雲のように」では、3拍子を感じ取って歌詞唱や階名唱をするようにする。その際、音高に合わせて手を上下に動かしたり1小節ごとに区切りながら旋律線をかいたりすることで、各小節や各フレーズの旋律の音の動き方を意識しながらリコーダーの演奏ができるようにし、第2次の学習につなげていく。

第2次では、旋律の特徴に着目し、児童の気付きとともに、一人一人の思いや意図を大切にしながらリコーダーを用いた音楽づくりの活動を展開していく。まず、第1次で演奏した「あの雲のように」の一部を即興で変奏する活動から、様々な旋律の音の動き方を見付け、矢印を使って可視化する。併せて、楽曲の最後で、リズムの変化についても簡単に触れるようにする。次に、見付けた旋律の音の動き方を使ってグループで簡単な旋律をつくるようにする。その後、教師の提案を基に、これまでの学習を生かして、旋律の音の連なり方やリズムなどを工夫して変奏するようにする。題材の最後は、つくった楽曲全体の旋律の動きに着目し、まとまりを意識して仕上げるようにする。

3 題材の目標

- ○旋律の特徴に興味・関心をもち、曲想とその変化を感じ取って歌ったり演奏したりする学習や、 音楽の仕組みを生かして旋律をつくる学習に進んで取り組むようにする。
- ○旋律の特徴を見付けたり、それらを生かしたりしながら表現を工夫し、どのように歌ったり音楽 をつくったりするかについて思いや意図をもつようにする。
- ○旋律の特徴やその違いを生かして、歌ったり演奏したりするようにする。

4 教材の選択(◎は本時で扱う教材)

- ○「ふじ山」 文部省唱歌 巌谷 小波 作詞
- ○「あの雲のように」 芙龍 明子 作詞 作曲者不明 飯沼 信義 編曲
- ◎「せんりつづくり」 (音楽づくり)

旋律の特徴(音の動き方や連なり方、リズム等)を生かして、リコーダーを用いて音楽づくりをする教材である。「ソラシドレ」の5音を使い、旋律の特徴、音やフレーズのつなげ方等を変化させながら試行錯誤して旋律をつくることで様々な旋律の特徴を感じ取ることができるため、本題材に適している。

5 本題材で主に取り扱う〔共通事項〕と学習の関わり

〔共通事項〕	リズム	旋律	変化
	つくった旋律のリ	・旋律の音の動き方や連なり方に注	・旋律の特徴を生か
ナな労泅江新	ズムを変化させ	目して歌ったり演奏したりする。	して、楽曲の一部を
主な学習活動	て、曲想の違いを	・旋律の特徴を生かして音楽づくり	変奏したり音楽を
	表す。	をする。	つくったりする。

6 題材の指導計画・評価計画(8時間扱い)

(1) 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
○旋律の特徴に興味・関心をもち、曲	○旋律の特徴を見付けたり、それら	○旋律の特徴やそ
想とその変化を感じ取って歌った	を生かしたりしながら表現を工夫	の違いを生かし
り演奏したりする学習や、音楽の仕	し、どのように歌ったり音楽をつ	て、歌ったり演奏
組みを生かして旋律をつくる学習	くったりするかについて思いや意	したりしている。
に進んで取り組んでいる。	図をもっている。	

(2) 題材における指導計画・評価計画(本時 5/8時)

I	持	○学習内容 ◎教材	・指導上の留意点 評価方法《 》
	Š	第1次 旋律の音の動き方に気を付けて	、歌ったり演奏したりしよう
	1	○情景を思い浮かべながら、歌詞唱し	・富士山の写真や富士山に関する児童の発言から、歌
		たり階名唱したりする。	詞の内容への理解を深めながら、正しい音程で歌唱
		◎「ふじ山」	するようにする。
			○音楽表現の技能《録画による演奏の聴取》 全児童記録

- 2 ○旋律の音の動き方から楽曲の特徴を見付け、強弱を工夫して歌う。
 - ◎「ふじ山」
- 3 ○3拍子を感じ取りながら、歌詞唱 したり階名唱したりする。
 - ◎「あの雲のように」
- 4 ○旋律の音の動き方を感じ取りながら、リコーダーで演奏する。
 - ◎「あの雲のように」

- ・旋律線をかいて、曲の山や旋律の音の動き方を可視 化し、強弱を工夫して歌唱するようにする。
- ○音楽表現の創意工夫《発言内容》
- ・体を動かして4拍子と比較しながら3拍子を感じ取るようにし、拍に合わせて歌唱するようにする。
- ○音楽表現の技能《行動観察、演奏の聴取》
- ・階名唱を基に、音高に合わせて手を上下に動かした り旋律線をかいたりし、各小節や各フレーズの旋律 の音の動き方を意識しながら演奏するようにする。
- ○音楽表現の技能《録画による演奏の聴取》 全児童記録

第2次 旋律の特徴に注目して音楽をつくろう

- ⑤ ○楽曲の一部(3、4、7、8、11、 12、15、16小節)を変奏し、 様々な旋律の音の動き方を見付ける。
 - ◎「あの雲のように」
- 6 ○様々な旋律の音の動き方を使って、 簡単な旋律をつくる。
 - ◎「せんりつづくり」
 - ○教師の提案を基につくった音楽を変
- 8 奏して仕上げ、発表する。
 - ◎「せんりつづくり」

- ・児童が即興で演奏したものを旋律線で示し、旋律の 音の動き方を見付けたり、児童の発言を基に分かり やすい名称を付けたりして共有するようにする。
- ・次時の学習の素地になるよう、楽曲の最後で、リズムの変化についても簡単に触れるようにする。
- ○音楽表現の創意工夫《発言内容、演奏の聴取》全児童記録
- ・様々な旋律の音の動き方を可視化し、条件を基に、 簡単な旋律をつくるようにする。
- ○音楽表現の創意工夫《行動観察、演奏の聴取》
- ・教師の範奏を基に変奏の仕方を提案することで、つくった音楽を見直し、旋律の音の連なり方やリズムを変化させて音楽をつくるようにする。
- 〇音楽表現の創意工夫《発言内容、振り返りシート》 **全児童記録**
- ○音楽への関心・意欲・態度《感想発表、振り返りシート》 全児童記録

7 本時の学習指導(第2次 1/4時)

(1) 目標

7

- ○旋律の特徴を生かしながら表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつようにする。
- (2) 本時で主に取り扱う〔共通事項〕: リズム 旋律 変化
- (3) 展 盟

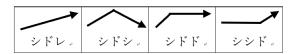
学習内容 ・学習活動	内は学習活動に即した評価規準	時間
C:具体的な児童の姿	指導上の留意点(・) 評価方法《 》	H/J [E1]
1 前時までの学習内容を振り返	・前時に提示した拡大譜を用いて、各小節や各フレー	5
り、学習の見通しをもつ。	ズの旋律の音の動き方を意識して演奏するように	
「あの雲のように」をリコーダ	する。	
ーで演奏する。	・適宜声をかけ、一人一人が姿勢やタンギングに気を	
	付けて演奏するようにする。	
2 「あの雲のように」の一部を変	・条件を設定し、即興でつくって一人ずつ演奏したり、	30
奏し、様々な旋律の音の動き方	それを全員で模倣して演奏したりするようにする。	
を見付ける。	〈設定する条件〉	
・3・4 小節目を即興で変奏して	・3・4小節目だけ変奏する。・リズムは変えない。	
演奏する。(音の動き方)	・ソラシドレの5音から選ぶ。・レの音から始める。	

- ずつ下げてみようかな。
- C:レドレは、なんだか谷みた いな形だよ。
- C:レソレは深い谷だね。同じ 谷でも、レドレとは雰囲気 が変わるね。
- ・7・8小節目を即興で変奏して 演奏する。(音の動き方)
 - C:今度は、シドレのように、 上がることもできるね。
 - C: さっきの矢印と反対側に 動いている感じがする。
 - C:シソレも、さっきの谷と同 じような動き方だよ。
- ・15・16小節目を即興で変奏 して演奏する。(リズム)
 - C:最後はソで終わらないと、 まだ音楽が続いていくみ たいになっちゃうよ。
 - C:ソの音を連続して演奏す | ると、曲が終わりになる ことを知らせているみた いだね。
- 3 本時の学習を振り返り、次時 の活動の見通しをもつ。
 - ・本時の学習をノートや振り返 りシートに整理する。
 - C:旋律の音の動きを少し変 えるだけで、違う曲にな ったみたいだった。
 - C:音楽が矢印で表せるなん て面白いな。
 - C:次の時間は、今日変えなか った部分を変奏したい。
 - ・次時の活動を決める。

- C:レドシというように、一つ ・一人ずつの演奏に合わせて教師が手を動かすように することで、音の動き方に着目できるようにする。
 - ・旋律の音の動き方を可視化するために、矢印等を使 って板書し、児童の発言を基に分かりやすい名称を 付けるなどして、全員で共有するようにする。



- ・条件を一部変え、「7小節目はシの音から始めるよ うにする」とすることで、様々な旋律の動き方を捉 えられるようにする。
- ・旋律の音の動き方をより細分化することもできる が、本題材ではおおまかに捉えられればよいことと し、上記の5つと下記の4つを示すようにする。



- ・条件を一部変え、「15小節目はソの音から始める ようにする」とすることで、ソから始まる旋律の音 の動きを考えるようにする。その際、どんな音の動 き方をしたとしても、最後はソで終わることで終止 感が出ることを確認するようにする。
 - ・慣れてきたところで条件を変更し、ソの1音のみで 演奏し、リズムを自由に付けるようにする。
 - ・これまでの学習を生かして、4小節ごとに一人ずつ 即興で変奏しながら全曲つなげて演奏するように する。
 - ・原曲と比較し、音の動き方を変化させたことによっ て曲想も変化したことを味わえるようにする。
 - ・毎時間の終末に振り返りシートを記入し、思考の過 程や得た知識を蓄積するようにする。
 - ○音楽表現の創意工夫≪発言内容、演奏の聴取≫ 旋律の特徴を生かしながら表現を工夫し、どのよ うに音楽をつくるかについて思いや意図をもって 全児童記録 いる。

旋律の音の動き方に関連して発言もしくは演奏し ていれば、「おおむね満足できる状況である」と判 断できる。

・児童の振り返りから意見を引き出し、次時は本時の 学習を基に旋律づくりをすること伝えて、次時の見 通しがもてるようにする。

10